

住まいの飾り職人“アトムリビンテック株式会社”の広報誌 [アトムニュース]

ATOM NEWS

2017 WINTER

198





- 3 アテナの道具箱 蕎麦打ち職人 最上はるかさん
- 6 石の神様・仏様 ご隠居さんの内緒話
- 7 住まいに役立つ仲間たち あなたの家の『^{かわや}厠』はどこにあるの？
- 9 CSタワー通信 特別展示「KANAGUつなぐ地域《福井》」
- 10 Vegetable Atelier プチヴェール
- 11 古今東西たてものがたり 東京都新宿区 林芙美子記念館
- 15 What is ATOM? 2017 秋の内覧会レポート
- 17 SLOWでいこう 山梨編・2 スタジオ KURI
- 18 オフタイム

今号の表紙

写真 プチヴェール



「プチヴェール」については
10ページでご紹介しています

photo by 吉田周平

1981年神奈川県南足柄市生まれ。千葉県八千代市在住。娘の誕生をきっかけに写真に出会う。あるがままの日常を独自の視点で撮影する。

読者プレゼント Present



● うるしモバイルタンブラー 波千鳥

福井県鯖江市といえば、めがねフレームとともに有名なのが越前漆器。職人の丁寧な手作業による漆塗りのコーヒータンブラーを片手に、街で、オフィスで、スタイリッシュに漆器を楽しんでみませんか？

「うるしモバイルタンブラー」には唐草や鳥獣戯画など数種類の図柄があるなかで、今回アトムニューズがセレクトしたのは、波千鳥。夫婦円満・家内安全・勝運祈願といった意味合いをもち、古くから日本人に親しまれてきた縁起のよい文様です。ちなみに、このあと読者の皆さまが小誌を読み進めていくうちに、波千鳥に関係した小さな記事が登場しますので、そちらもお楽しみに。

【サイズ】φ97mm×H138mm 【容量】300ml 【重量】240g 【色】朱・黒
【材質・構造】本体：18-8ステンレス 真空二重構造 漆塗装 フタ：ポリプロピレン
【販売価格】6,500円＋消費税

巻末のハガキ・FAXまたはホームページのアンケートにお答えいただいた方の中から抽選で5名様にプレゼントいたします。

【締め切り】2018年1月31日(水)

● 当選者の発表はプレゼントの発送をもってかえさせていただきます

ギャラリーショップ KANAGU

職人・金属・手しごとをキーワードに、こだわりのアイテムを取り揃えています。どうぞお気軽にお立ち寄りください。





アテナの道具箱
ATHENA'S TOOL BOX
VOL. IV



軽やかに、リズムカルに、蕎麦打ちがはじまっていた。

店の左奥にあるガラス張りの蕎麦打ち場。作務衣を着て両耳にはアイポッドのイヤホン。

お気に入りのアーティスト、さだまさしを聴きながら、最上はるかさんの蕎麦打ち職人としての一日がスタートする。

蕎麦打ちの修業は「水回し三年、延し三月、切り三日」といわれる。水回しは最初の工程で、蕎麦粉に水を加え、手で攪拌しながら粉にまんべんなく水を浸透させる木鉢での作業。

「おいしい蕎麦ができるかどうか、この作業がキーポイントです」

全体に水が回った蕎麦をまとめて捏ね、麺棒を使って延していく。この作業で蕎麦粉は薄い布状になり、それを折りたたんで専用の「蕎麦切り包丁」で切る。あつという間に、手打ち蕎麦が打ちあがった。

— 神楽坂の名店 —

自分の店を持ちたいと思ったのは高校生ごろだ。「当時は喫茶店とかケーキ屋さんとか、漠然と夢見ていた」。その夢に真剣に取り組みはじめたのは、大学生で就活に入ってから。まずは「蕎麦」「寿司」「おでん」の三つに職種をしばり、「できれ



初心を打つ

蕎麦打ち職人

最上はるか

HARUKA MOGAMI

1985年、東京都生まれ。中高一貫の私立校から大学の法学部に進学。就活中に自分の夢を叶えようとミシュラン一つ星の神楽坂の名店「蕎楽亭」でアルバイトをはじめ、卒業後に正式に弟子入り。約6年の修業を経て、2012年にのれん分けの店「蕎楽亭 もがみ」を開店。今年9月に姉妹店となる「galette cafe もが」をオープンした。



ば開業しやすく、修業期間がそれほど長くないものをごと考えて、蕎麦を軸とした店に決めました。

修業と店づくりの参考に、あちこちの蕎麦屋を歩きまわった。その中で、ドキリとするほどカルチャーショックを受けたのが、神楽坂の名店「蕎楽亭」だった。「蕎麦屋としては珍しいカウンターのある店。揚げたての天ぷら、茹でたての蕎麦がスピーディーに提供されて、そのライブ感がカッコよかった」。働く人たちも生き生きとして、店全体に活気がみなぎっていた。直感的に「ここで修業したい!」と思った。

じつは「蕎楽亭」の親方は脱サラ組。二年半ほど修業して独立した人だったから、彼女の想いを快く受けとめてくれた。

— 会津のかおり —

アルバイトで店に入ったのは、大学三年の秋。ホールスタッフとして、配膳や洗い物からはじめた。仕事に慣れたころ、営業中に出た蕎麦くずを集め、賄い用の蕎麦を打たせてもらった。「でも短く切れてしまったり、切り幅もバラバラ、食べなくてもボンボンの蕎麦でしたね」

それでも休憩時間や空いた時間を利用しては蕎麦打ちの練習をした。同時に、小料理や店舗経営のコツなど、独立に向け



ての勉強や店の物件探しも進めていった。そして約六年の修業ののち、二十六歳で独立。二〇一二年、神楽坂に「蕎麦亭もがみ」をオープンした。「蕎麦亭」から独立した弟子の中で、店名に自分の名前を入れることを認められたのは、女性では彼女が初めて。「独立祝いにと、親方が店のネーム入りの蕎麦切り包丁をプレゼントしてくれました」

蕎麦粉は会津産の「会津のかおり」。毎朝、石臼で自家製粉し、蕎麦粉十割の「生粉打ち」。メニューの何品かのレシピは修業先から受け継いだ。

— 今日より明日 —

開店後はお客さんに恵まれ、多忙な日々がつづいた。順調な滑り出しで、経営も安定してきたころ、ある「難問」に直面する。出産と育児である。

夢を叶えた独立だったが「店を閉めようか」と思い悩んだ。「女性が働くとき、子供をいつ産むか判断が難しい。私は三十歳までに一人は欲しい」と思い覚悟を決めました。そして無事に女の子を出産。半年間は休業したものの、お客さんは戻ってきてくれた。その後、今年五月にも次女を出産。十一月の新蕎麦の季節に営業を再開したところだ。

二度におよぶ出産、育児、休業。その



経験を経て、蕎麦打ち職人としての背骨が通った。なによりの喜びは、お客さんに「おいしかったよ」「また来るね」と言ってもらえることにつきる。「だから昨日よりも今日、今日よりも明日いいものを、よりおいしいものを提供したい」と思う。

毎年、大晦日は「年越し蕎麦」で店は書き入れ時だが、彼女はこの日を休業日とした。一年の締めくくりに、修業した店の手伝いにいき、親方が打つ姿を見て心をリセットしようと決めているのだ。蕎麦打ちの「初心」にかえる日である。

休む理由はもうひとつ。「娘たちと一緒に『紅白歌合戦』を観たいというのが本音かな」

蕎麦打ち職人が、ふと母親の顔になった。



石の
神様

仏様

27

埼玉県川越市 川越大師喜多院五百羅漢

ご隠居さんの内緒話



さてさて、あなたはいつでも何かを心配したり、悩んだりしているようだが、

江戸時代から世間のあれこれを眺めてきたわしらに言わせれば、

あんたが心配している程度のこととは、なんべんでもあったもんだ。

そんなときは嵐をやり過ぎ亀みたいに首をすくめていれば、

たいていは、どうにかなるもんじゃな。

まあ、正直に言えば、

どうにもならないことも、何度かはあったが、それでもやっぱり、お気楽にかまえることが肝心じゃ。

本当にどうにもならないことは、あんたがいくら心配したところで、やっぱりどうにもならないが、

何でもかんでも、はなから「どうにかなる」と信じていた方が、存外、どうにかなる確率が高いのである。

どうにもならなさそうなほど悪いことが起きた時は、

「それでもきつと、どうにかなるさ」と声に出して言ってみなされ。

それが、「山あり谷あり、また谷あり」の人生を

うまいこと渡っていく魔法の呪文なのじゃ。

てなことを、お参りに来たあんたたちに内緒で伝えたくて、

わしらは、ずっとここで座っているわけだな。

お寺や神社の境内の片隅や道すがらにひっそりと立つ、石の神様・仏様。時によっては、立派なお堂の中に祀られた国宝の仏像よりも力強く、わたしたちに何かを語りかけてくれます。

川越大師 喜多院五百羅漢 (埼玉県川越市)

川越大師喜多院は、小江戸川越を代表する大きなお寺。広い境内の一角に、堀で囲まれた場所があり、そこに、おびたしい石仏が並んでいます。五百羅漢と呼ばれますが、羅漢さんだけでなく、その他の仏像も合わせて538体。ユニークな表情とポーズの羅漢さんの中でも特に人気が高いのが、このひそひそ話をする羅漢さん。見る側の心持ちで、よい話をするようにも、悪だくみをしているようにも見えるのです。

● 東武東上線、JR川越駅徒歩20分



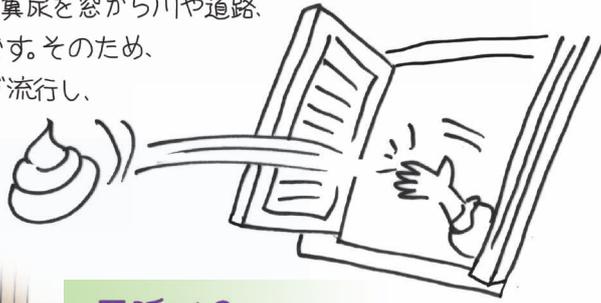
文・写真 吉田さらさ 寺と神社の旅研究家

寺、神社、仏像に関する雑誌記事や単行本を執筆。各地に取材し、石の神様、仏様の像の写真を撮って「お言葉」を考えるのがライフワークとなった。東京都内の石仏を探し歩く講座の講師も務めている。『明日がちょっと幸せになる お地藏さまのことば』(ディスカヴァー・トゥエンティワン)、『石仏・石の神を旅する』、『長崎の教会』(いずれもJTBパブリッシング)など、著書多数

<http://sarasa77.hatenablog.com/>

中世のヨーロッパでは糞尿が窓から降ってきた!

フランスやイギリスでは18世紀まで、なぜかトイレという概念がありませんでした。そこで町の住民たちは、糞尿を窓から川や道路、空き地に投げ捨てていたのです。そのため、悪臭を緩和するために香水が流行し、また汚物を踏まないようにハイヒールが考案されたともいわれています。



雪隠は?

「雪ちゅう」という和尚が熱心に、靈隠寺の廁をきれいに掃除していたので、そこから和尚の雪と寺の隠をとって『雪隠』と名付けられたとも言われています。千利休が大成した茶の湯でも、廁を雪隠と呼んでいました。



(雪ちゅう和尚想像図)

廁は水洗の始まり

古事記のなかの記述で、川の流れる溝の上に廁を設置したというような表記があります。川の上に家を建てたことから「かわや」と呼ばれた説もあります。また大屋から離れた『個家』を「かわや」とも呼んでいました。

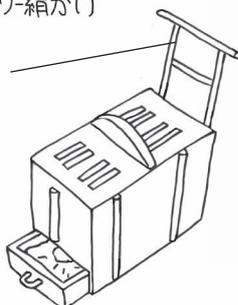


平安時代にはすでに携帯トイレがあった

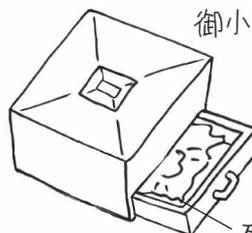
貴族は、箱形でしゃがむスタイルの携帯トイレを御用用具として持ち歩いていたそうです。現在の簡易トイレよりもおしゃれな木製トイレです。

櫛箱漆塗り絹かけ

鳥居のような形の部分『きんかくし』は「絹かけ」が変化したことばのようです。こちらを後ろにして座り、十二単の裾をかけました。



御小用箱



用を済ませたあとは、砂などが入った引き出しから汚れた砂を取り除き、絶えず清潔な状態にして持ち歩いていました。

住まいに役立つ仲間たち

TOILET-1

あなたの家の『廁』はどこにあるの?

廁は本来、私たち人間にとってなくてはならないものであり、身近なものにもかかわらず、昔は玄関から離れた場所に配置されていました。それらは当然、臭いや衛生的な問題があったからでしょう。今回は、家の片隅に追いやられていたけれども、人間にとってなくてはならない『廁』のおはなしです。 ※これは廁が水洗トイレに変わる前のおはなしです。



塩浦 信太郎

信太工房主宰／カラクリ作家。博物館や科学館へのカラクリの貸し出し、ホテルなどからのオーダーによる作品制作。ほかにデパート各店で展示販売などを行っている

素材を知る **レアメタル**

レアメタルという金属があるの？

近年、携帯やスマホなどに使用されている金属として取り上げられることの多いレアメタルは、希少金属を意味する独特なネーミングですが、海外ではマイナーメタルとも呼ばれています。ところが、マイナーと呼ばれる金属が、現在ではハイテク化されたさまざまな製品で幅広く使用されるようになってきました。レアメタルは単体で存在する金属と勘違いされがちですが、そうではありません。ニッケル、コバルト、リチウム、ホウ素、チタンなど31種類の金属の総称なのです。これらの金属が希少である理由としては、地殻中の存在量が少ないこと、また採掘と精錬に高い費用がかかること、単体での取り出しが技術的に難しいことが挙げられます。

これらの鉱物の埋蔵量では中国が世界でダントツです。そのため、一時期この金属が政治の交渉材料として使われることもありました。そこで日本でもレアメタルの新たな埋蔵地を探していたところ、日本近海の深海にも多くのレアメタルが存在していることが確認されました。ただし、コストとの折り合いがつかうかどうか、今後のカギとなってくるでしょう。そのほか、ハイテク機器の中に使用されているレアメタルは都市鉱山と呼ばれ、これらを取り出して再利用するリサイクル運動が注目されています。

リチウム	ベリリウム	ホウ素	コバルト	チタン
バナジウム	クロム	マンガン	ルビジウム	ニッケル
ガリウム	ゲルマニウム	セレン	パラジウム	ストロンチウム
ジルコニウム	ニオブ	モリブデン	バリウム	インジウム
アンチモン	テルル	セシウム	白金	ハフニウム
タンタル	タングステン	レニウム	タリウム	ビスマス
希土類				

江戸時代には厩の糞尿はお金になった

厩の糞尿は、町から農家へ肥料として売られていましたが、糞尿の中にも料金のランクがありました。値の高いのが幕府や大名屋敷の「きんぼん」。続いて街場の公衆便所の「辻肥」。続いて庶民の長屋の「町肥」。最下等は「たれこみ」。「きんぼん」と「たれこみ」では、ずいぶんと値段が違いました。



お尻をきれいにする

紙は紀元前に中国で発明されましたが、そのおかげで、アジアには早くから紙の文化がありました。平安時代は、「ちゅうぎ」という木のへらを使用しました。江戸時代になると「浅草紙」と呼ばれる古紙が使われるようになり、その後庶民は古紙を揉んで柔らかくして使用していました。

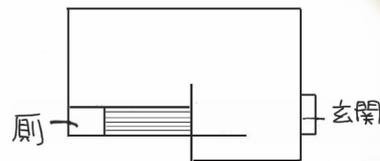


家のどこに厩があるのか

水洗トイレのない時代、もっぱら厩は玄関から離れた人目につかないけれども、肥のくみ出しに便利な、出入りがしやすい、日当りの悪い場所に設置されていました。



臭うわね、でも毒い。このときからエゴが始まっていたのネ



清潔好きな日本人は必ず手を洗う

(俗称カラン)

日本人のように、日常生活でトイレから出て必ず手を洗う民族は、世界的にも珍しいそうです。昭和のはじめには、吊り手水というバケツのような形の手洗いがトイレの外に吊るされていました。





10th ANNIVERSARY



CS TOWER 通信

特別展示「KANAGU つなぐ地域《福井》」

越前焼 一泉直樹 高温焼成で固く誇ります。

越前和紙 柳瀬靖博 全国に数ある和紙産地の中でも、1500年という長い歴史と高い品質技術を誇ります。

越前漆器 土田直東 漆の木から漆液を採集する「漆掻き」がたくさんいたこともあり、古くから漆器づくりが盛んでした。

越前打刃物 岩井丈 かつて漆掻きが漆を求めて全国に出かけた際、同時に刃物を売り歩いたことで全国に広まりました。

越前タンス 山口祐弘 木材を独自の指物技術によって加工したあと、漆塗りを施し、鉄製金具で装飾した重厚感が特徴です。

若狭メノウ細工 上西宗一郎 メノウ原石を焼いて美しい色を出し、砂を使って丹念に磨き上げます。



ア

トムCSタワー1階「ギャラリー」では、「KANAGUU つなぐ地域《福井》」の展示を行いました。「越山若水」とも呼ばれ、緑豊かな自然と変化に富んだ景観が自慢の福井県。そこで活躍する若手職人グループ「福井7人の工芸サムライ」が手掛ける7つの伝統工芸について、簡単ですがご紹介します。

越前焼 焼き締まっているため、丈夫な焼き物として古くから重宝されてきました。

越前和紙 若狭塗 加福宗徳 若狭の海底の美しさをデザイン化した「菊塵塗」が有名です。

越前漆器 越前打刃物 岩井丈 かつて漆掻きが漆を求めて全国に出かけた際、同時に刃物を売り歩いたことで全国に広まりました。

越前タンス 若狭メノウ細工 上西宗一郎 メノウ原石を焼いて美しい色を出し、砂を使って丹念に磨き上げます。

若狭塗 若狭メノウ細工



越前焼



越前和紙



越前漆器



若狭メノウ細工



若狭塗



越前タンス



越前打刃物

シントラトピ!

四季の花で新虎通りに彩りを「フラワーポット 花苗植え込み」



先日新虎通りで行われた花苗植え込みイベントでは、地域住民と新橋虎ノ門界隈に働く人々が一緒になって、花苗をフラワーポットに植えました。新虎通りが少しでも活気づくように、一丸となって盛り上げていこうという決意のもと、みんなで集合写真

をパチリ。このあとクリスマスシーズンに向けて、毛糸のワンポイント装飾で新虎通りに彩りを添えようと、「ニット・イルミネーション」という新たなアートプロジェクトも企画されています。



アトムCSタワー

東京都港区新橋 4-31-5 TEL.03(3437)7750

Open 月-金 10時-18時
Close 土・日・祝日(第1・第3土曜日は営業)

JR・東京メトロ銀座線・都営浅草線「新橋駅」より徒歩8分
都営三田線「御成門駅」・「内幸町駅」より徒歩8分

photo by 吉田周平

冬から春へ、 色んな野菜に七変化！ 畑の王様プチヴェール。

プチヴェールは芽キャベツとケールを掛け合わせてできた、冬野菜。芽キャベツと同じく、わき芽の部分をいただきます。グリルすると、驚くほどの甘み。塩とコショウで召し上がれ。

そんなプチヴェール、他の部分もとっても美味しい。

11月に大きく育つ、

葉っぱからはなんと、ケールの味。

煮込み、焼き、ペーストも美味しい。

3月には頂点に生なるトップヴェール。

いわば大きなプチヴェールです。

わき芽と同じくグリルで食べたい。

5月には茎がぐんぐん伸びてきます。

これはスティックヴェール。

さつと湯がいてオリーブオイルで。

そして7月は、また種を蒔く季節。

一年中、一生かけて

私たちを楽しませてくれる野菜です。



クリタタカシ | 野菜農家「キレド」代表。サラリーマン時代に出会った「梨のような大根」に感銘を受け、農業の道に。現在は千葉県四街道市にて、年間150種類以上の野菜を栽培している。「野菜の一生をみる」「レストランでしか食べられないような野菜を、食卓にも」を基本理念として活動中。同県千葉市には、とれたて野菜を味わうことのできる「キレドベジタブルアトリエ」も。

キレドベジタブルアトリエ
千葉県千葉市若葉区小倉台5-13-4-1F
www.kiredo.com



いまから百十四年前の明治三十六（一九〇三）年、東京市下谷区入谷町で飾り職人・高橋良助が指物金具製造の作業場を構えた。アトムリビンテックのルーツである。その同じ年の十二月三十一日、福岡県門司市で林芙美子が誕生。

『放浪記』や『浮雲』などのベストセラー作家として知られる芙美子は、昭和十六（一九四一）年八月から昭和二十六（一九五二）年六月までの十年間を、新宿区中井に建てた家で過ごした。林芙美子邸は現在、「林芙美子記念館」として、公益財団法人新宿未来創造財団によって管理、公開されている。

足掛け六年をかけた家

西武新宿線「中井」駅から、そぞろ歩いて七〜八分。坂道に寄り添うように、その家は建てられていた。作家・林芙美子が晩年を過ごした家である。

芙美子は、幼いころから母と養父の行商に伴って、西日本の各地を放浪した。十九歳で上京してからも、銭湯の番台や下足番、セルロイド工場の女工、カフェーの女給などの職や住居を転々とし、苦しい生活の中で文学を志した。

転機となったのは昭和五（一九三〇）年出版された『放浪記』である。ベストセラーになったこの作品で世に認められ、

流行作家としての第一歩を踏みだした。

本の印税でヨーロッパに旅立った彼女は、パリやロンドンでおよそ半年間を過ごした。帰国後、洋館住まいを経て、住み心地のよい家を建てたいと考えるようになる。彼女のエッセイによれば、「家を建てるについての参考書を二百冊近く求めて、およその見当をつけるようになり、材木や、瓦や、大工に就いての知識を得た」という。

そして建築実現に向け、費用をつくること二年、設計に一年、大工に任せて三年、足掛け六年の歳月をかけた。「東西南北、風の吹き抜ける家」というのが、家づくりのもっとも重要なポイントであった。

東京都新宿区・林芙美子記念館

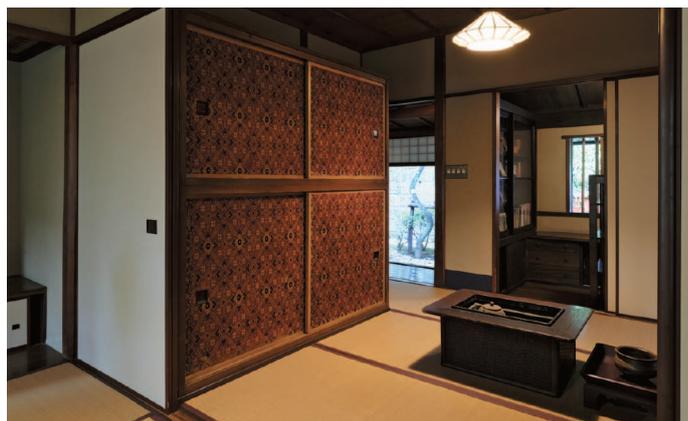
取材・文 倉田ひさし 撮影 大垣善昭



写真上は越屋根（こしやね）で、採光や煙出し用に屋根の上に小屋根をのせた構造。中は屋根裏部屋で天井裏に収納された梯子を下ろして昇降した（非公開）



玄関にある取次の間。右手は記者や編集者用の客間で、左手は親しい友人用の入口



寝室の隣の次の間。布団を入れた置き押入れは、芙美子が選んだ更紗が貼ってある

林芙美子が愛した風の吹き抜ける家



京風民家と数寄屋風造り

まずは設計図の段階で、百枚近くの青写真が作成された。さらに、彼女が思い描く家のイメージを伝えるために、設計担当者と大工を引き連れて京都まで出かけ、民家や寺院、茶室などを見学して歩いた。

実際の家づくりにあたっては「客間に金をかけないことと、茶の間と風呂と廁と台所には、十二分に金をかけること」にこだわった。

新居は昭和十六（一九四一）年八月に竣工。完成した家は、京風民家のおおらかな外観とともに、数寄屋風造りの細やかな配慮が施されている。四方に開かれた窓は、彼女が望んだ「風の通り道」となって、自然と一体化した爽快さをもたらしている。

この家で美美子は、画家の夫・緑敏と、実母のキク、のちに養子に迎えた男の子・泰とともに暮らした。



左右に書棚がある書庫。
金庫の隠し場所でもあった



人造石の研ぎ出しでつくられた台所。
食器棚には美美子愛用の食器が並んでいる

家の中心をなす「茶の間」は、掘りごたつ、釣り戸棚、二段押入れ、小引出し、さらに収納式の神棚を備えている。六畳間ではあるが、やに松を張った縁側を広くとり、狭さを感じさせない開放感がある。南に面して陽あたりも眺めもよく、一家団らんの場であった。

最新設備の水洗式トイレ

料理好きであった美美子は、「台所」にもこだわった。流しはタイル張りを嫌って人造石の研ぎ出しを採用。高さは身長百四十三センチの小柄な彼女に合わせて低めにつくられた。流しの右側に京都の寺の厨を真似て水溜めを設け、そこに水道の水を流しこむ設計にした。いまだいうダブルシンクである。そこで夏は素麺や西瓜を冷やし、いざという時の火の用心や断水に備えた。

ここで家族の食事の支度をし、親しい客が訪れた時は、席を外したわずかな間

に酒の肴をつくり、客の舌をうならせたという。

台所の隣にある「風呂」は、節なしの総檜張り、風呂桶も総檜の落しこみ式。腰まわりに淡いクリーム色のタイルを張った。風呂場は一畳半ほどだが、大きくとられた窓を開放せば、窓際の四方竹の藪、中庭の紅葉や柘榴の木が風情を添え、露天風呂感覚が味わえる。

家の中でもう一箇所、彼女がこだわった場所は「廁」であった。

昭和十六年当時としては珍しく、最新設備の水洗式トイレで、自家用の浄化槽も特注した。その費用は、小さな家でも一軒建つほどだったという。手洗いの設えも茶室風で、細部にまで女性ならではの心配りを垣間見ることができている。

放浪の果ての終の棲家

かくして家づくりに精力を注いだ美美子だが、作家としての主戦場は「書齋」である。最初のうちは「居間兼寝室」を仕事部屋としていたが、明るすぎるといふ理由で隣の「納戸」に居場所を移した。洋服入れや物入れなどが使いやすく配置されたこの部屋は、京都・大徳寺の孤篷庵にヒントを得たという深い土庇のある静寂な雰囲気。雪見障子の向こうに庭が

アトムの視点

風の吹き抜ける家。その名の通り写真奥側の書庫の窓から光が漏れているのが、手前の庭に面する寝室からも確認できます。さぞかし夏は涼しいでしょうが、裏を返せば…。あちこちの部屋に手あぶり火鉢が一人にひとつ、といった具合で置かれているのも納得ですね。



洗面所脇の5段引出しの鉄が千鳥になっていて、座には波模様も描かれています。撮影時は気がつきませんでした。あとから写真をよく確認したら、千鳥が飛んでいるように斜めになるのが正しい角度のようです。なんとという愛らしさ!



陽あたりがよく、広縁の向こうに広がる庭の景色が美しい茶の間。芙美子はこの縁側にちゃぶ台を置き、養子とした息子・泰と食事を楽しんだ

眺められる趣向は、納戸とは思えない趣を醸しだしている。

芙美子は執筆に集中すると、強度の近視用眼鏡を外し、机に顔をくっつけるようにして万年筆を走らせた。ふだんは家人でもめつたに書齋に入れず、執筆が一息ついた時に自分で室内を片づけ、掃除もしたという。

そんな芙美子の持病である心臓病が悪化したのは、昭和二十六（一九五二）年頃のことである。流行作家としてのハードな執筆と取材活動が、病に拍車をかけた。

この年の六月二十七日、雑誌連載中の記事「名物食べあるき」の取材で銀座の老舗で食事。その後、深川の鰻の名店で編集者とともに少量の鰻を味わい、午後九時過ぎに帰宅。十一時過ぎに「書齋」で就寝したが、間もなく苦悶し始め、かけつけた夫の介抱と医師の手当てを受けたが、その甲斐もなく二十八日午前一時頃に不帰の客となった。

死因は心臓麻痺。享年四十七であった。愛する家族のために建てた家で、芙美子が暮らしたのは、わずか十年。放浪の果てに辿りついた終の棲家は、ある意味で作家・林芙美子を代表する「作品」のひとつでもあった。

この家には、いまでも心地よい風が吹き抜けている。

INFORMATION

林芙美子記念館

- 所在地：東京都新宿区中井2-20-1 ● TEL. 03-5996-9207
- 開館時間：10:00～16:30（ただし入館は16:00まで）
- 休館日：月曜日（月曜日が休日にあたるときはその翌日）
年末・年始（12月29日～1月3日）
*建物内部は、毎年3月、6月、11月の特別公開日に限り公開
- 入館料：一般 150円 小・中学生 50円
（団体20名以上の場合は、一般 80円 小・中学生 30円）
- 交通：都営地下鉄大江戸線・西武新宿線「中井駅」より徒歩7分
東京メトロ東西線「落合駅」より徒歩15分
西武バス「中井駅」より徒歩5分
- ホームページ：<http://www.regasu-shinjuku.or.jp/rekihaku/fumiko/12/>



納戸としてつくられたこの部屋は、後に芙美子の書齋となった。座椅子や机、肘置き台など、在りし日の雰囲気が再現されている。この書齋で芙美子は最期の時を迎えた

NEW

アウトセット引戸錠

お部屋や収納の引戸を指1本で
らくらく施錠!
小さなお子さまによる開閉をストップ

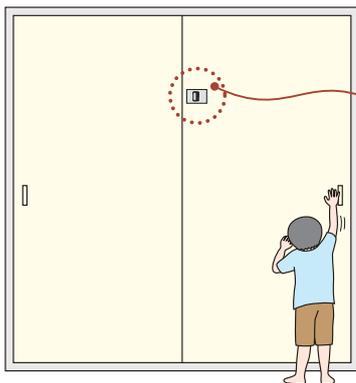
室内でも室外からでも、指でプッシュ
するだけでスムーズに施錠や解錠が
できます。手掛かりや表示部も大きい
ため、引き違い戸の両面仕様に最適で
す。取付位置を高くすることで、小さ
なお子さまによる引戸の開放を防止
することができます。



室外側

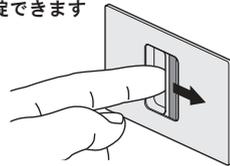


室内側



お子さまの手の届かない
高い位置に取り付けます

室外側からでも指で簡単に
施解錠できます



NEW

感震くん3

揺れている時だけ扉をロック!
食器の飛散を防ぐ「感震くん」が
さらにバージョンアップ!!

地震の時にキッチンや食器棚の
扉をロックして、食器やグラスな
どの収納品の飛び出しや落下を
防止します。従来の商品と大きく
異なる点は、地震が起きて揺れて
いる時にだけ内蔵した鋼球が動い
てロックがかかること。揺れが
おさまると鋼球が元の位置に戻
り、自然にロックが解除されるよ
うになっています。



ロック本体

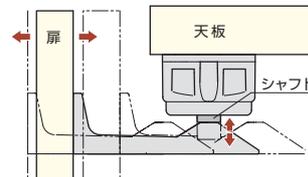
シャフト



受け部

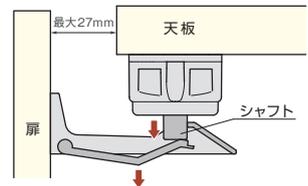
平常時

平常時はシャフトが上下動するので
扉の開閉ができます



ロック時

揺れを感知するとシャフトが
動かなくなり、ロックが掛かります



2017 秋の内覧会レポート

去る10月、大阪と東京でアトムリビンテック「2017 秋の内覧会」を開催いたしました。生活スタイルの変化にフレキシブルに対応した商品として、上吊式から下荷重式まで品揃え豊富なソフトクローズ引戸、シンクロ連動引戸や折戸金具などの施工例をご覧いただきました。東京会場では、高齢者の「老健施設」の居室や幼稚園・保育園などの園舎の室内をイメージした「非住宅エリア」と、住宅の間取りをイメージした「LIVIN'ZONE」を設置。実際の住空間に近い状態で展示を行いました。

大阪会場

アトム住まいの
金物ギャラリー大阪





ダブルオープン

NEW

3連引戸ダブルオープン

セーフティストッパーと
フランス落としの組み合わせで
間仕切りの自由度アップ!!

従来の3連引戸の場合、戸先側の扉からの出入りに限られていました。今回の商品は、真ん中の扉を固定することで、戸尻側からの出入りも可能なダブルオープンになりました。これによって、広い間口を「間仕切る」ことや「開放する」ことが、引戸を開閉するだけの簡単な操作で実現できます。

[セーフティストッパー] [フランス落とし]



クローズ



開放



戸尻側オープン



戸先側オープン



東京会場
アトムCSタワー



ご来場くださいましたお客様に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。



陽射しがこちよい山の南面にスタジオKURIはあります。里山が大好きな音楽ユニットKURIのおふたりは、山梨のこの地にスタジオを構えて12年になります。愛犬ウルと愛猫のミカチンとともにここで暮らし、創作音楽や民族音楽を中心に活動を行っています。創作した音楽を携えて、日本各地で演奏活動を行うとともに、世界各地をステージとし、ライブを行っています。スタジオの敷地内で開催される『妖精舞踏音楽会』は、地元の人たちも集い、触れ合う、年にいちどの大切なお祭りになりつつあります。

山梨編・2



この山麓にあるスタジオKURI

このイベントでは出店者も、同じステージに立つアーティストであると考えています



地元の農家さんもマルシェに参加しています



カッチャンが建てた小屋のなかでは、展覧会が行われている

妖精舞踏音楽会



いろいろなお酒と食べものが楽しめるお店



インドカレーの店、ナマステCafe

手作りの洋服屋さん



ユニット名 KURIの由来

平和を受する縄文の人たちの世界観に由来。縄文人は、粟の栽培と収穫を計画的に行いながら、長きにわたり定住生活を営んでいました。争いのない平和な時代は約1万年も続いたとも言われていますが、その平和の象徴として粟(KURI)をユニット名としました



個性豊かなアクセサリー



手作りハンバーガーが美味しそう!

・スタジオ KURI

山梨県北杜市須玉町江草 8243-3
HP: www.studiokuri.com
Mail: studiokuri@gmail.com
TEL: 0551-42-3765



profile 水町克・三種 [みずまちかつ・みほ]

KURIは、民族楽器奏者の水町克(カッチャン)と水町三種(ミホ)の音楽ユニット名。克さんは、以前自動車の設計をしていましたが、ある時会社を辞め、ウクレレとギターを抱えて、単身山梨の山中に入り、壊れかけた民家を改築し、そこでミュージシャンを目指しました。三種さんは、笛奏者としてオーケストラに属し、国内外で演奏活動を行っていましたが、笑顔で演奏する克さんに出会い「音楽はこうでなくては!」と意気投合。こうして音楽ユニットのKURIが始まりました。

読者の声

はじめてアトムニュースを読ませていただきました。「上吊式引戸」「ソフトクローズタイプ」が御社の品と知り、どちらも生活の中で、はじめて目にした時、「イイナー!!」と思ったものでした。今後もそのようなものをどんどん開発お願いします。

〈東京都 K・H様 女性〉

今回の「忘れられた存在『天井』を考える」は、目からウロコでした。これからも意外な企画を期待しています。

〈北海道 ドン・ノン様 男性〉

初めて手に取りましたが、面白い記事ばかりで持ち帰りました！水引職人の世界、天井の考察、リチウムについて、大好きなフランクロイドライトの建築…どれも読みごたえありました！

〈山口県 Y・N様 女性〉

197号の特集記事の帝国ホテル、懐かしい気持ちで一杯でした。それは、その解体一年前に我が姉が帝国ホテルで結婚式を行った、その時の建物の姿を思い起こさせてくれたからです。

〈東京都 M・K様 男性〉

表紙の写真が目を引きました。キュッとまるまったつぼみが2つ。夏の間、何度もオクラの花を食する機会があり、どんな風の花がついているのか気になっていました。

〈茨城県 K・S様 女性〉

私はライトの作品を見学にシカゴ、ピッツバーグ、ニューヨークへと出掛けた経験があります。4月初旬でしたがとても寒く、ストームにも遭遇し、大変な旅行でした。ライトの作品はとても感動しました。

〈愛知県 Kenty様 男性〉

197号において記載に誤りがありました

P16「ファースト精神」とは？ 本文7行目

誤 ダイカスト工法は金型を用い、溶解した金属素材を吹き付けて成型するという新技術です。
正 ダイカスト工法は、溶解した金属素材を金型に圧入して成型するという当時の新技術です。お詫び申し上げますとともに、ここに訂正いたします。

編集後記

表紙のプチヴェール、どんな配置にしたら一番かっこいいかを、デザイナーさんと延々試行錯誤。じーっとPCの画面を見ているうちに、なんだかコワイ龍の顔のように見えてきました。表紙と、目次と、10ページ。全部同じ野菜だなんて、とても信じられないですね(笑)。

〈七変化〉

前号の記事について、読者さまから記載の誤りをご指摘いただきました。知識豊富な読者さまに支えられ、アトムニュースは本当に心強いです。今年もお世話になりました。新しい年が皆さまにとって、よい年になりますように。

〈アトムニュース編集室一同〉

INFORMATION

ギャラリーショップKANAGUのオンラインストア

KANAGU STORE

12/1 リニューアルオープンしました

kanagu-store.com



アーバンスタイル事業部 **住吉 大樹**

アトムCSタワー内、ギャラリーショップ
KANAGU担当。伝統工芸品や金属にまつわる
職人アイテムの販売に携わる

1993年のJリーグ開幕以来、私はずっと浦和レッズを応援しています。2001年にメインの本拠地が駒場スタジアムから埼玉スタジアムに移ったあとは、時間が許す限り現地観戦するようになりました。最近ではシーズンチケットを購入し、指定席でまったりと、誰にも気を使わずに一人で観ています。

浦和の試合には喜怒哀楽のすべてがあります。勝つたらうれしくてその日はとびきりおいしいお酒が飲めますし、次の試合までずっと気分よく過ごせます。逆に試合に負けた日は選手全員をぶっ飛ばしたくなるくらい腹が立って、もう応援なんかするもんか！と思うことさえあります。

Jリーグ開幕当初の浦和は最下位争いの常連で、1999年には「ミスター・レッズ」こと福田正博選手の「世界一悲しいVゴール」によってJ2

降格も経験しましたが、J1復帰後は積極的な補強を行い、チームはやがて強豪チームの仲間入りをするようになりました。2006年には念願だったリーグ優勝、天皇杯優勝と2冠を果たし、翌2007年にはAFCアジアチャンピオンズリーグ優勝など、当時は思い返すと今でもそのときの興奮が甦ります。

まだまだ語り尽くせませんが、最後にひとこと。よく浦和サポーターは怖いと言われますが、決して怖くはありません。男声による地響きのような声援や、客席で繰り広げられるコレオグラフィ（人文字）は、本当に迫力があり、初めて体感した人は必ずといっていいほどびびります。興味がある方は一度埼玉スタジアムへ足を運んでみてください。みなさんもきっとはまると思いますよ。



大迫力のコレオ(左)と、ビッグフラッグ(右)。フラッグの下に入った人は、その数分間何も見えません！

個人情報の取り扱いについて

アンケートや読者プレゼントにご応募いただいた皆さまの個人情報は、読者プレゼントおよび「ATOMNEWS」の発送にのみ使用いたします。ご本人の承諾のない限り、第三者に提供することはありません。また、ご応募の集計結果は個人を識別できない形で管理の上、「ATOMNEWS」の企画・編集・制作の参考にさせていただきます。

